

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2025 年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2025 年12月4日(木)15時 40 分～17 時 00 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール/9F 902教室
参 加 者	<外部委員:2名> (順不同・敬称略) 島田 祐輔 (apgm デザインアトリエ) 篠塚 泉 (シグニファイジャパン合同会社) <内部委員:2名> 高山 寿一郎(専門学校東京テクニカルカレッジ インテリア科科長 議長) 村田 涼 (// インテリア科主任 書記)
討 議 内 容	<第二部 系別分科会>15:40～17:00 9 階 902教室 - 議長挨拶と本日の議題 - 就職・内定状況 - 資格取得率 - 海外研修 - リアルジョブプロジェクト(RJP)の報告 - 留学生対応と日本語能力、今後の課題 - 教材・授業運営・ICT 活用 - 四期制への移行に関する議論 - 次回予定・閉会の挨拶 1. 議長挨拶と本日の議題 高山科長より、在籍学生数の増加、特に留学生が多数を占める現状に伴う授業運営・評価方法・ディプロマポリシーの維持について意見交換を行う旨が説明された。 2. 就職・内定状況 今年度 2 年生 18 名のうち 17 名が就職希望であり、現時点で 16 名が内定している。未内定者 1 名(留学生)は技術力は十分だが、日本語能力および年齢が要因で選考が進みにくい状況にある。前回会議から新たに 3 名の内定が追加され、そのうち 1 名が IKEA への内定を獲得した。マネジメント経験と語学力が評価されたと思われる。 3. 資格取得率 色彩検定の年間合格見込みは約 80%であるが、前期は 54%に留まった。留学生が中心に苦戦。IC 試験では 1 年生 25 名中 1 名が合格、2 年生 18 名中 3 名が合格。福祉住環境コーディネーターは 18 名中 3 名が合格した。留学生の日本語能力不足が資格取得率に影響しており、日本人学生でも一部では読解力・基礎学力の不足がみられる。昨年度と比較すると合格率低下が顕著。 4. 海外研修 今年度はバルセロナへの海外研修を実施予定。建築科を中心に参加希望がみられ、インテリア科からも一定数の参加が予想される。事前学習の実施方法やスケジュールの確保について議論があった。 5. RJP(リアルジョブプロジェクト)の報告 レジデンスさくら(女子寮)のリノベーションを実施。学生の作品品質が高く、モデルルームとして運用する予定。昨年度同様、リリカラから資材協賛が得られた。制作した部屋は CG と見間違えるほど高い完成度との評価。 6. 留学生対応と日本語能力、今後の課題 留学生比率が高まる中、日本語能力不足が授業理解・課題提出・資格取得・就職に大きな影響を与えている。 <主な意見> ・島田委員:日本で就職する以上、日本語能力は不可欠であり、語学レベルによってキャリアの選択肢が大きく変わること学生に理解させるべき。また、資格取得率は日本人と留学生を分けて提示し、日本語力の差が学習成果や就職にどう影響しているか分析すべきである。 ・篠塚委員:図面が書けても、チーム内のコミュニケーションや顧客対応には日本語力が必須。企業側も日本語能力を重視している。 ・小山委員(前回議事録より):日本語レベルが不足している学生向けに、1 年制の BE 科の拡充による「1+2」教育モデルが有効ではないかという意見が参考として共有された。

	<学校側の対応> ・RJP の時間を利用した日本語サポート授業を継続。効果測定は今後 JLPT の結果などをもとに行う。 ・教材へのふりがな付与、専門用語リスト化などの補助が必要。 7. 教材・授業運営・ICT 活用 ・熟語理解が難しい学生が多いため、資料にふりがなを付ける取り組みが一部で実施。 ・来年度からタブレット導入を推進し、資料のデジタル化・書き込み可能環境を整備。 ・紙媒体と電子教材の使い分けが必要との意見あり。 8. 四期制への移行に関する議論 従来の五期制から四期制へ移行することで、大学の AB/CD 期に近いスケジュールとなる。夏休みを挟まず試験を実施することで、学生の学習効率向上や作品制作期間の確保、就職活動の促進が期待できる。 授業コマ数や単位制(45 時間換算)との整合性、スタジオアワーの配置などについて議論が行われ、現実的な運営方法を調整していく方針が示された。 9. 次回予定・閉会の挨拶 次回委員会は 2026 年 3 月 7 日(土)に開催予定。作品展示発表会と併せて実施する。 また同日「よるてら」も開催予定。
--	--